

1 委託事業者

中央復建コンサルタンツ（株）

2 委託内容

(1) 路面電車の将来に関する調査

① 現況把握

運行事業者等からデータの提供を受け、以下の内容について、現況を整理する。

- ・運行形態、区間ごとの利用状況及び収支、費用構造
- ・車両、軌道、電力設備、信号施設ごとの設備投資の状況・会社の運行体制等
- ・大規模な設備投資が見込まれる箇所の耐震化の状況
- ・観光やまちづくりにおける路面電車の定量的な価値
- ・県や各市町の総合計画、地方版総合戦略、立地適正化計画、都市計画マスタープラン等におけるまちづくりの方向性の整理や路面電車の機能・役割等

② 課題の抽出

- ・利用者等へのアンケートを実施し、課題やニーズを把握する。
- ・事業者から設計図等の資料提供を受け、大規模な設備投資が見込まれる箇所の耐震化に要する経費及びその他の設備の維持・更新に係る費用負担を試算した上で、とさでん交通の経営状況に与える影響を把握する。

③ 改善施策の提案

- ・①、②の調査結果や他事例も踏まえ、路面電車の今後の改善施策について提案する。
- ・沿線地域の現況や沿線市町と連携した取組も踏まえ、費用や効果とあわせて具体的な改善施策を提案すること。

④ 将来シナリオと比較分析

- ・路面電車の将来的なあり方を複数パターン想定（例 現状維持、電車＋バスによる運行、全区間バスでの運行、L R T化等）し、費用便益分析の実施やクロスセクター効果の算出により、定量的な評価を行う。
- ・改善施策を加味し、期間ごと（現状、5年、10年、30年）に比較パターンの作成を行う。

(2) 路面電車と他の公共交通モードの連携に関する調査

① 現況調査

運行事業者等からデータの提供を受け、以下の内容について現況を整理する。

- ・路面電車の運行に関連性の高い区間を運行するバス、鉄道の運行状況（路線網、運行頻度、利用者数、通過人員等）や曜日別・天候別の利用傾向を把握する。
- ・主要なハブ施設（電停、バスターミナル、駅）の乗換利便性について、所要時間、設備等の基準を設けた上で、評価を実施すること。
- ・各停留所の圏域人口、人口当たりの利用者数、周辺施設の状況等、潜在的な需要の把握に向けた整理を実施すること。

② 交通需要分析

- ・アンケート等の手法により、中央地域の移動実態に係るデータ（時間帯、目的、手段、属性別）を収集・分析（パーソントリップ調査等の実施）すること。
- ・上記データを用いて、中央地域の地域公共交通の需要（利用者数）と供給（輸送力）を系統別区間別に整理し、需給ギャップを分析する。

③ 課題の抽出

- ・①、②の結果を踏まえ、課題（例 輸送効率の低い路線バスの系統、天候による路線バスの遅延、交通渋滞、利用者の偏り等）を抽出し、見える化する。

④ 将来予測

- ・人口予測や乗務員の状況から、将来（5年後、10年後、30年後）の需要・供給力の予測を分析する。
- ・上記に、人口データや土地利用情報等から把握される潜在需要を重ね合わせて分析を行う。なお、潜在需要の掘り起こしを実施した場合も考慮すること。

⑤ 将来ネットワーク案の提示

- ・交通モードが重複する路線の集約や路線の新設・既存の路線の適正化（便数、経路変更）など、今後の改善施策を提案する。その際、5年後、10年後、30年後を見据えた公共交通ネットワークの将来像を複数パターン作成すること。

1 概要

■ 調査事業：中長期的な公共交通ネットワークの再編や路面電車の将来像の検討※にあたり、必要となる基礎資料を整備

<委託先> 中央復建コンサルタンツ(株)

<委託期間> 令和7年8月1日～令和8年3月31日まで

※ 路面電車あり方検討会で活用・・・(メンバー)高知工科大学、早稲田大学、公共交通事業者、四国運輸局、四国地方整備局、高知市、南国市、いの町、高知県

2 調査内容

(1) 路面電車の将来に関する調査

- ・ 路面電車の現況を把握し、課題の抽出や改善施策を提案
- ・ 費用便益分析やクロスセクター効果等により、将来的なあり方の定量的評価を実施

■ 現況把握

- ・ 運行形態・区間ごとの利用者の状況及び収支、費用構造
- ・ 車輌、軌道、電力設備、信号施設など設備の状況、運行体制等
- ・ 将来の大規模な設備投資 など

■ 実施方法

- ・ 利用者アンケートによる課題やニーズの抽出
- ・ とさでん交通からの資料提供等による実態把握 など

〈調査分析例〉

(2) 路面電車と他の公共交通モードの連携に関する調査

- ・ バス、鉄道など他の公共交通モードとの連携状況の把握し、改善施策を提案
- ・ 交通需要分析等による将来予測、将来ネットワーク案を提示

■ 連携状況に関する調査

- ・ 路面電車と並走するバス、鉄道の運行状況、利用傾向
- ・ 主要なハブ施設の乗換利便性 など

■ 交通需要分析

- ・ パーソントリップ調査の実施
- ・ 潜在需要の分析、将来（5年度、10年後）の需要・供給力の予測
- ・ 需要と供給を系統区間に整理し需給ギャップを分析 など

〈調査分析例〉



将来像検討の基礎資料を整備

路面電車の将来シナリオ

- ・ 路面電車の将来的なあり方を複数パターン想定し、費用便益分析やクロスセクター効果の算出により定量評価 など

改善施策の提案

- ・ 運行ダイヤ等の見直し
- ・ 車輌更新などの設備投資案の整理
- ・ 行政支援のあり方 など

将来ネットワーク案の提示

- ・ 交通モードが重複する路線の集約、既存路線の適正化
- ・ 5年後、10年後、30年後を見据えた公共交通ネットワークの将来像を提示 など